
黄蝶

坂井ゆら

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黄蝶

【Nコード】

N9990Y

【作者名】

坂井ゆら

【あらすじ】

ある日、万事屋に真選組それと吉原の百華が依頼に来た。銀時は最初渋っていたが、なんやかんやで引き受ける事となった。その依頼が銀時を衝撃の再会へと誘う。

プロローグ：ある昼下がりの女の会話（前書き）

はじめまして〜！&a m p・お待たせいたしました〜！

「誰も待つてねえ〜よバカ女」

うう……

相変わらず言葉遣いが悪いよなあ〜

んじゃあ

黄蝶、自己紹介よろしく！

「はじめまして、黄蝶と申します。

前書き？後書き？活動報告にバk…もとい、作者と一緒にでています。

本文とは全く関係ありません。赤の他人ですね。

そちらも含め、以後よしなに。」

口が悪いのは私だけみたいです……

黄蝶に関しましては、今度活動報告にプロフィール書きますので、お待ち下さい。

さて、まあ

冬休みぐらいからと言っていたのですが、テスト期間から始めちゃいましたね

「って、コラ〜〜〜〜なにやっとなんじゃややややや！……！作者唯でさえ成績悪いくせにiiiiiiii！……！」

なにか駄眼鏡の声に限りなく近い、不快な幻聴が聞こえたかもしれ
ませんが、無視して大丈夫です♪

それでは

駄文ですが楽しんで頂ければと思います！

「本当に僕の事ほとんどスルーでいったあああああああ！！！！！！」

プロローグ：ある昼下がりの女の会話

「ねえ、黄蝶つて蝶々知ってる？」

女はいきなり話し始めた

「うん？あの黄色いのでしょ。」

小さくて結構かわいいわよね。」

もう一人の女は答えるが、何が言いたいのかわからない様子

「まあそうなんだけどね、“凶事の前兆”っていわれてたのよ。」

「へえ、初耳だね。でもいきなりなんでこの話を？」

もつともな質問をした

「それが最近黄蝶っていうくノ一が幕府に仕えるようになったんですって。」

「黄蝶？あれ？なんか聞いた事ある気がするわ。」

あつ！でもいい所の御曹司の奥さんだったから別の人だわ」

「いいえ、おんなじ人なのよ。」

「えっ？あつ、そういえばその御曹司病で半年ぐらい前に亡くなったのよね。」

「ええ……。それから幕府に仕えるようになったんですって。」

「そうなの……。大変ねその黄蝶って子も。
でもなんであの御曹司の奥さんが未亡人になったからって、
幕府でくノ一として仕えるのかしら……。」

「ああ、それは黄蝶は幕府の重鎮の娘さんだからよ。
あつ今、

“どつちみちなんで重鎮の娘がくノ一に？”
とか思ったでしょう？
それは養子だからよ。
居にくかったから幕府の仕事もやってるの。」

サラサラと答える女

「ねえ……………」。

なんであなたがそんな詳しい事まで知っているの？！」

ふと疑問に思った女が聞く

しかし女は

「フフッ。なんでかしらね。」

あつつ見て！」

女の後ろの上の方を指差す

「なあに？」

女は指さされた方を見た

「あつ、蝶々じゃない。」

しかも黄色……………黄蝶ね
なんてタイムリーなのかしら。」

「“凶事の前兆”かもしれないわね。」

「えっ？何か言った？」

女の呟きは誰も聞こえてはいなかった

「いいえ、何も言っていないわ。」

「いや…」

黄色い蝶々だけは聞こえていた

そう黄蝶

それは……………

『凶事の前兆』

プロローグ：ある昼下がりの女の会話（後書き）

？ほとんど会話文で情景がわからない！？
という方

絶対沢山いらっしやと思います！

情景はどんな解釈を入れても、多分大丈夫なので想像して下さいませ。

「いやっそこは、

『わかって頂けれるような文を書けるように頑張ります！』

でしょ普通？何勝手に諦めてんだ！

努力しろ！！このバカ女！！！」

ええ〜。

絶対無理だもんっ

ちゃんと自分の事わかってるんだもんっ！

「もんっ」ってつけんの止める。キモい……………」

どうぞ皆様

感想？誤字脱字？直した方が良い所など

是非教えて下さいませ！！

……………

おそらく第1章は冬休みになると思います。

亀並の更新速度になるとありますが、見放さないでいただけると嬉しいです！

この小説の黄蝶とは、本当に全く性格が違いますよ~~~~~
こんな口悪くはございません！

序章（上）：過去の約束（前書き）

初めてo rお久しぶりです
そして

おはようございますo rこんにちはo rくんばんは
坂井ゆらです。

本当はプロローグの次から
第一章の予定だったのですが
なんだか伏線が足りないなと思い
序章を書いてみました。

はい

そうです

皆様きつと変に思われていますよね
はい私も書きながらそう思いました。

そうです！

タイトルの

（上）

あの………

なんか書いているうちに
長くなってしまった………

あと

(中)と(下)があります

はい

ここでも皆様のお気持ちわかります
上下じゃなくて上中下というね

「そんな面倒くさい序章、見たことないわ」

私もありません……

こんな感じですが

付き合っていただけだと思います。

序章（上）：過去の約束

「早く大人になりたいなあ」

「ん？」

「んでどうすんの？」

「そんで銀時と結婚するの！」

「はあ

よくそんな恥ずい事言えんな
どうした？いきなり」

「こないだ近所の佐々木さんが結婚したんだ
その婚礼に私も行ったの

そしたら普段あんなに地味な佐々木さんが白無垢着てて
地味なんだけど

ものすごく綺麗だったの！
それで結婚したいなって」

興奮した様子で話す黄蝶

「いやいやいやいや

なんかもう

佐々木さんが地味って事しか伝わってこねえよ
てか佐々木さんって誰だか知らないけど
めっちゃ地味地味言っで失礼じゃね？
怒っちゃうんじゃない？」

「えゝそんなこんないよ
佐々木さんすごい優しいもん
私が言いたいのは」

「白無垢が着たいんだろ？
きつと先生ん家にあるぜ
着せてもらえよ」

笑いをこらえながら言う銀時

「もおゝ
絶対わかってて言ってるでしょ？

本当は早く銀時と結婚してずっと一緒にいたいのだっ／＼／＼／

「ハハッ
そうだな
早く大人になりてえゝ」

「え？

結婚の事には触れない感じ？

あのさあ

やっぱり銀時ってDSだよな」

「え？

誉めてくれてありがとう」

「誉めてないわっ」

「ああそうだな……………」

「????」

「結婚してずっと一緒にいたいな」

顔を赤くする黄蝶

「なっ

いきなり真面目な顔して言わないでよ／／／／／
っていうか

相変わらず私の話はスルーかつ！」

「なんだよ

黄蝶から言ってきたんだろ？

『銀時と結婚するの!』って

今度は笑いながら言う銀時

「もう」

あんましからかうと怒るよ?」

「ハハハッ

悪かったよ

んな不機嫌になんたって」

「むっっ」

「……………」

こんな風にずっと一緒に笑ってたいな」

「？」

「うん!」

「結婚もしたいな」

「えっ／＼／＼!」

「うっうん約束だよ!!」

「ああそうだな」

序章（上）：過去の約束（後書き）

いかがでしたか？

序章というか

過去丸出しなのですが

本編のベースが現在なので

このくらい載せても大丈夫かなあと

相変わらず状況がよくわからない文章ですが
プロローグ同様

皆様のご想像にお任せいたします。

これからよろしくお願いいたします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9990y/>

黄蝶

2011年12月5日03時01分発行